

第2回奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会 会議録

と き：平成20年8月12日（火）10：00～12：00

ところ：大垣市役所3階 合同委員会室

出席委員

| 区 分 | | 役 職 | 氏 名 |
|-------------------|-----------------|----------------------|-------|
| 座 長 | 学識経験者 | 情報科学芸術大学院大学学長 | 横山 正 |
| 副 座 長 | 文化連盟関係者、観光協会関係者 | 大垣市文化連盟会長、大垣市観光協会会長 | 田中 良幸 |
| 委 員 | 中心市街地活性化協議会関係者 | 大垣市中心市街地活性化協議会準備会会長 | 金森 勤 |
| | 商店街振興組合関係者 | 大垣市商店街振興組合連合会理事長 | 北野 茂樹 |
| | 自治会関係者 | 大垣市連合自治会連絡協議会副会長 | 大橋庄一郎 |
| | 婦人会関係者 | 大垣市連合婦人会書記 | 谷口いつ彗 |
| | 市民団体関係者 | 大垣市文化財保護協会会長 | 矢橋 和江 |
| | | まちづくり工房大垣・歴史観光グループ代表 | 疋田 正 |
| | 学生 | 岐阜経済大学学生 | 蟻塚 正樹 |
| | | 岐阜経済大学学生 | 堀 あゆ美 |
| | | 大垣女子短期大学学生 | 小西 美那 |
| | | 情報科学芸術大学院大学学生 | 津田 志保 |
| | | 岐阜県立国際情報科学芸術アカデミー学生 | 菅沼 聖 |
| | 地元関係者 | 興文連合自治会長 | 松岡 昌男 |
| | | 西連合自治会長 | 北村 正章 |
| 南連合自治会長 | | 小林 晃 | |
| 船町湊まちづくり株式会社代表取締役 | | 三輪 高史 | |

欠席委員

| 区 分 | | 役 職 | 氏 名 |
|-----|---------|----------------|-------|
| 委 員 | 青年団体関係者 | 大垣市青年のつどい協議会会長 | 大塚 典和 |
| | 市民団体関係者 | 奥の細道俳句協会会長 | 田中 青志 |
| | | ふるさと大垣案内の会会長 | 河合 和弘 |
| | 学生 | 大垣女子短期大学学生 | 中島 章子 |

事務局

| | | |
|------------|-------------------|-------|
| 企画部 | 部長 | 水井 静雄 |
| | 政策調整課長 | 社本 久夫 |
| | 政策調整課政策調整係長 | 寺嶋 太志 |
| | 政策調整課主査 | 後藤 威博 |
| | 政策調整課主査 | 清水 雅士 |
| かがやきライフ推進部 | 部長 | 宇佐見昭典 |
| | まちづくり推進課長 | 河内 雅善 |
| 生活環境部 | 部長 | 上田 静夫 |
| | 生活安全課長 | 川瀬 修平 |
| 経済部 | 部長 | 田中 重勝 |
| | 商工観光課中心市街地活性化担当係長 | 伊藤 智 |

| | | |
|----------|--------|-------|
| 建設部 | 部長 | 浅井 幸治 |
| | 道路課長 | 森川 祥史 |
| 都市計画部 | 部長 | 近藤 茂 |
| 教育委員会事務局 | 局長 | 北村 武久 |
| | 文化振興課長 | 野寺 紀夫 |

アドバイザー

| | |
|----------------------|-------|
| 大垣商工会議所まちづくり特別委員会委員長 | 車戸 慎夫 |
| 大垣商工会議所事務局長 | 菱田 耕吉 |
| 大垣商工会議所事務局 | 増元 英治 |
| 大垣商工会議所事務局 | 伊藤 孝之 |

【会議録】

1. 開会

(水井静雄 企画部長)

本日は大変お忙しい中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私、本日の進行を務めさせていただきます、企画部長の水井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、只今から、第2回奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会を始めさせていただきます。

なお、本日の懇談会は、大垣市青年のつどい協議会会長の大塚典和 様、ふるさと大垣案内の会会長の河合和弘 様、大垣女子短期大学学生の中島章子 様が、所用によりご欠席でございます。また、奥の細道俳句協会会長の田中青志 様が、遅れてご参加いただきます。

さて、前回の懇談会では、ご出席いただきました委員の皆様から、奥の細道むすびの地周辺整備に関しまして、お一人ずつご意見を発言いただき、懇談会閉会後には、現地を見学いただきました。

本日の懇談会におきましても、奥の細道むすびの地周辺整備につきまして、様々なご意見やご提案を頂戴いたしたいと存じます。

それでは、ここからの進行は、横山座長様にお願いいたしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

2. 第1回奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会における各委員の意見について

(横山 正 座長)

それでは、始めさせていただきます。

この懇談会は、大垣市情報公開条例の規定に基づきまして、本日の会議で個人情報など非公開とする事案がないことから、会議は公開といたします。

なお、本日、傍聴を希望される〇〇町の〇〇〇〇さんほか1名がいらっしゃいますので、ここで会場にお入りいただきます。

(事務局員が傍聴者を所定の席へ誘導)

それでは、前回の懇談会について、委員皆様のご意見を事務局でまとめておりますので、説明を受けたいと思います。事務局、よろしくお願いします。

(社本久夫 政策調整課長)

各委員の皆様からいただいた内容を事務局でまとめておりますので、資料No.1をご覧いただきたいと存じます。

まず、横山座長様の意見でございますが、奥の細道むすびの地、湊があったということで、大垣の水の文化を何らかの形で反映すべきではないかという意見でございました。また、桑名まで船で行くことができるようになればというご意見でした。

副座長の田中様からは、第2住吉荘についても、今後、対象区域の中に入れられないか。また、深川から大垣までが奥の細道であるということや、大醒榭の移築についてご意見をいただきました。

商店街振興組合の北野様からは、商店街との連携といった意味で、もう少し広い地域の開発というお話。また、川越市が大垣市と条件が似ているということで、参考にしながら、まちの回遊性を捉えていったらどうかというご意見でした。

連合自治会連絡協議会の大橋様からは、大垣城周辺や駅も含めた一体化の中でむすびの地を考えてはどうか。そして観光地だけではなく、住む場所としても楽しいまちになるようにという話。ミニ奥の細道を通じて大垣を訪れる人が増えている。黒羽町や深川の芭蕉館が大変立派なので、それに匹敵する施設を建設してはというご意見でした。

連合婦人会の谷口様からは、食事をする場所がないという点で、庶民にとって1千円前後の食事ができる場所を作ってはどうかというご意見をいただきました。

青年のつどい協議会の大塚様からは、若い人たちに、むすびの地がなかなか知られていないのではないかとということで、若い人たちが訪れ、ふるさとを愛して住みよいまちになるような形で進めてはどうかというご意見でした。

奥の細道俳句協会の田中様からは、小学生やお年寄りには俳句人口の中で増えているが、若年層が結びついていないので、そうした若年層と俳句を結びつける整備を今後進めてはどうかというご意見でした。

文化財保護協会の矢橋様からは、解体して保存している大醒榭が今回の構想の中で最大の関心事というお話。整備を進めるには、外から来た人の目をいろいろなところで拾い上げながら構想を進めることが重要ではないか。駅からむすびの地までは十分に歩ける距離という点で、回遊性を考えた整備やバスや車の駐車場も近くになくても良いのではないかとご意見でした。

ふるさと大垣案内の会の河合様からは、単に点だけの整備ではなく、むすびの地から正覚寺までといった船町、美濃路の整備が必要ではないか。むすびの地は、観光ガイドなどで平成18年度に比べて訪れる観光客が大幅に増えているので、船町全体で考えてはどうかというご意見でした。

まちづくり工房大垣・歴史観光グループの疋田様からは、むすびの地は大垣にしかないキーワードであるということで、むすびの地というキーワードを生かした開発や、もう少し広いエリアを含めて市全体の起爆剤になるような整備を進めてはどうかというご意見でした。

岐阜経済大学の蟻塚様からは、学生にとって、芭蕉と大垣はつながってこないということで、おしゃれなバーやレストランがあれば、若者も訪れるようになるのではないかとということで、個性を出すというご意見でした。

大垣女子短期大学の小西様からは、大垣に来るまで、むすびの地を知らなかった。特に、芭蕉や俳句について分かりやすい場所があると良い。学習の場ができれば、小中学生をはじめとして、多くの人に来ていただけるのではないかとご意見でした。

大垣女子短期大学の中島様からは、自分でむすびの地へ行こうとしたが、道が複雑で行けなかったので、分かりやすい看板などがあれば、便利になるのではないかと。地図を持って自力で行ってみたいというご意見でした。

興文連合自治会の松岡様からは、現在のむすびの地記念館では一服する場所がないので休憩できる場所の整備が必要であること。また、芭蕉の作品が複製ばかりで本物が少ないので、購入してはどうか。先賢館は必要なく、集中的なお金の使い方をしてはどうかというご意見でした。

西連合自治会の北村様からは、天童市に芭蕉記念館があり、清楚で良いものであったので、そういうものがないかというご意見でした。

南連合自治会の小林様からは、エリア的に南連合自他会の地域が入っていないということで、もう少し東の部分、芭蕉ゆかりの句碑などもある住吉公園も含めて考えてはどうかというご意見でございました。

船町湊まちづくり株式会社の三輪様からは、市長をはじめ協力があり土地が手に入った。第2住吉荘の方とも話をし、地元の皆様は協力的である。市におんぶに抱っこではまずいと考えている。三輪様の酒蔵が明治21年に建ちましたが、毎年数百万円投入して維持するのも大変だが、なんとかやっている。古い家屋も同様で、今後、このエリアを出発点として市が中心になって、専門の課を作ってはどうかという話。また、小原鉄心の墓など、大垣にしかないものを入れて考えてはどうか。さらに、洒落たレストランなども含めてはどうか。ゆっくり回遊できる場所があれば良い。今回は、市が取得している、取得を目指している土地が中心だが、これが終わりではなく出発点である。全部入れ込もうとしても、なかなかまとまらないのではないかとご意見でございました。

以上、第1回懇談会における委員皆様のご意見をまとめさせていただきました。

(横山 正 座長)

第1回懇談会の内容について、事務局から説明を受けました。

委員の皆様からのご意見をもとに、アドバイザーの大垣商工会議所において、整備構想の中間報告がとりまとめられております。

それでは、大垣商工会議所まちづくり特別委員会の 車戸慎夫 委員長さんからご説明いただきたいと思います。車戸委員長さん、よろしくお願いいたします。

(車戸慎夫 アドバイザー)

奥の細道むすびの地がメインテーマになっていた気がしますが、先日は大井の荘のような話もありましたので、大きなスケールでまとめました。資料をご覧ください

きたいと思います。

奥の細道むすびの地周辺整備構想に当たってということで、郷土の歴史、文化、自噴水、自然資産、うだつの上がるまちなみもあり、修景すれば、随分風情のあるまちになることも可能だと思います。

観光資源については、そこに住む市民が理解・評価して、自分たちの日常生活に取り入れて、もっと生かしていくことで、初めて来訪者も価値をわかって評価するのではないかという気がします。一方的に観光だけの資源で捉えるのではなく、船町は周りにいろいろなものがあるので、その絡みで捉えたらどうかと思います。

この整備構想の対象区域は、船町地区全体の整備計画の核となる場であるということです。先ほど正覚寺まで含めてという話がありましたが、そういう意味では重要なまちだと思います。美濃路の修景化のポイントにもなると思います。

それから、大垣商工会議所では、中心市街地が観光だけでなく、大垣のアイデンティティというか、一番大垣らしさがあるのに地盤沈下している。これをなんとか活性化、賑わいということで、ただ単に人が集まればいいのかどうかはさておき、なんとかしなければいけないということで、市民ならびに来訪者の回遊性を深めていく。その出発点としても、この場所は有効ではないかと考えております。

そして大垣市内、市外のみならず、西美濃全体の様々な事柄のポイントになるだろう。ゲートウェイと書きましたが、ここに来れば大垣市民も来訪者も、周りになんてこういうことがあって、この地域にはこのような歴史、文化遺産があるかが分かって、そこへ行ってみようという場にもなるだろうという3つの点から、この場を検討するのが大切ではないかと思ひまして、以下のように5つです。最終的には奥の細道むすびの地を軸にしていますが、まとめてみました。

次のページです。日本はここで区切れている南海トウフトがあって、地震の発生源と同じように円弧を描いてくびれている。若狭から桑名までが日本の中で最短な距離である。これはただ単に地理的なものではなく、岐阜経済大学の森先生も南北の両方にまたがった植生物がある貴重な場所であるとおっしゃっています。そういえば、うどんなどの東西文化もこのあたりで交わりあっているということです。

次のページです。養老の断層は随分前に起きました。濃尾造盆運動ということで、養老側が沈んで、尾張丘陵側が上がっている。それゆえ、長良川は西へ向かって流れているが、あるところから南流し、西の養老山脈へ走る。木曾川も真西に向かって走るが、ある点で南流して、養老山脈にぶつかる。その伏流水がぶつかって、揖斐川の伏流水と合致したところが、水圧が一番高くて自噴する。それが大垣です。

ちょうど曲がったところが海拔10メートルで円弧を描いて、昔の東山道になっていて、その北には古墳群があり、その下は水郷地帯になっていて、輪中文化が栄えた。

輪中という地域になって、自然の驚異に対して恵みを勝ち取ろうと、何とか頑張ってきた。その辺りの水系が基本的な背景としてあり、歴史、文化に大きな役目を果たしたのではないかと思います。

黄色い線が中山道で、下のオレンジが東海道です。彦根辺りから関ヶ原を越えて、昔、源頼朝の頃は杭瀬川が揖斐川だったらしいですか、そこで乗れば伊豆まで行けた。そのまま揖斐川を歩いていけば、桑名へ出て、東海道へぶつかる。ですから、

水運のインフラストラクチャーが、最終的にはどうして芭蕉が大垣を訪れたかというところが、ある意味では地理的、地勢学的に成り立っている。

そういう場所の、特に船町はいろいろな要素が寄せ集まっている地であると捉えて良いと思います。そして水屋もあれば、洪水もあった。

池田の古墳群、垂井にも古墳があったそうですが、レンガに変わったそうです。古代になれば壬申の乱から白鳳文化。奈良時代にも荘園があったという時代があり、中世から近代にかけては天下分け目の合戦があり、それはすべてこの地が交通の要衝であったということと、関東の西の端であったことなどが含まれていると思います。近代の西美濃ということで、いろいろな地震や水害もありました。木曾三川分流工事によって、豊かになり、最近では地下水を生かして岐阜県には珍しく産業都市として力があるという今日に至っていると思います。

揖斐川とその水系が果たした水運としてのインフラストラクチャーの役割ということで、東海道、古くは東山道、中山道を揖斐川水系で結んでいる。陸運と水運の結節点として川湊として生まれたのが船町です。江戸時代の水運が一番のインフラだということで、有効に機能していた。大垣船町港は1600年初頭に開港して反映した。3代目の谷木因は芭蕉と非常に深い親交を結んだ。

どうも船町がすごい勢いなので、江戸幕府は禁止令などを出しましたが、禁止令にも関わらず、他の3湊よりもすべてが集積したほどの要衝であった。明治以降も鉄道が開通したといえども、水運が発達していた。

大垣は今も運輸産業が盛んですが、それも考えれば船町湊がキーポイントではないか。

奥の細道が、「行く春や鳥なき魚の目に涙」、「蛤のふたみに別れ行く秋ぞ」、春で始まり、秋で終わったということは、完結本としての奥の細道むすびの地ということになるほどだと思います。

先般、河合委員さんが、正覚寺のお話の中で、芭蕉が亡くなったときに、鳴海の下里家の菩提寺に比べれば、大垣の方が早いという話がありましたが、やはり芭蕉といえば、下里家。パトロンをしていたはずですし、蕉風の確立もされたと聞いています。その意味では下里家の力はすごくて、いろいろなところに支店を持っていて、それを求めて芭蕉もひょっとすると歩いたかもしれない。それほどのもので、下里さんにも話を聞いたほうがいい気がします。

芭蕉と木因ということで、よき理解者であったということですが、途中で資料から木因さんが消えるというのは、クラシックな方だったのか。芭蕉のハイカラさについていけなかったのかもしれませんが、それにしても往復書簡などがあるので、それなりに関係があったのでしょう。芭蕉と大垣藩士。美濃派の活躍などもあり、芭蕉ゆかりの地・大垣はなかなかのものです。ただ、そのストックということでは、芭蕉のものがなかなか残っていない。これから手に入れるのも大変のようで、今あるものをどう生かすかを検討して欲しいと思います。

これから、この地区をどうするかです。西美濃、大垣、中心市街地。すべてに対して船町地区はコアエリア。いろいろなものの密度が高いエリアだと思います。その意味では中心市街地の回遊性を誘発する拠点として良い。

中心市街地活性化法の手法ということで、場の形成をすべきだろう。特に船町は

場を形成すべき。そして中心市街地の「住」「商」「業務」機能の再生。次に場を作って、場を結んで、そこを修景して、場を生かして、出会う、場をサポートしようということです。ただ単に観光客でなく、我々市民がそういう場を活用するためには、整備をしながら水門川、自噴井戸で結んでもいいです。修景して回遊性を作りながら、みんなで集まる。そして新しい大垣のコミュニティを作る。それをまとめると3つになるということです。商工会議所としては、そういう形で船町地区を位置づけてみましたということです。

最後に敷地の特性です。大垣市総合福祉会館までは民間でも時間が来れば、開発ができると思います。そのためにも、施設群は美濃路側と西側に集めて、ここはフリースペースにして、福祉会館までの間の開発にフリーハンドの場を設けたらいかがかと思います。正面はあくまで水門川に面するべきだと思いますが、美濃路に関しても顔を作るべきだと思います。

施設としては、奥の細道むすびの地記念館、インフォメーション館。ここには、この地域だけでなく、大きくは西美濃や徳山までを網羅する。今までのことを考えると、先賢館もあり得るでしょう。守屋多々志記念館、洒落たレストラン、大醒榭の移築はするべきでしょう。多目的スペース、物産コーナー、自噴井戸、多目的イベント広場など、いろいろなものが考えられます。

最後に地下水の未利用エネルギーを活用したアクアキューブによるエコ空調。大垣の地下水は、地下3メートル近くのところにあるので、単なるビニール管を入れるだけで、ほとんど空調は可能でしょう。今、大垣ガスの設計をしていますが、アクアキューブとアースチューブの2つで空調をやろうと実験しています。大垣ならではのことができると思います。本当の意味でのコンパクトタウンが可能になると思います。モデル的な地域になればと思います。

以上が、整備構想の中間報告でございます。

3. 意見交換

(横山 正 座長)

アドバイザーの車戸委員長さんから、整備構想の中間報告について、ご説明をいただきました。ここからは、意見交換に入りたいと思います。

整備構想の中間報告に対してのご意見でも結構ですし、第1回懇談会でのご発言を補足するご意見でも結構です。それでは、お一人ずつ順番にお聴きしたいと思います。お一人2分程度でお願いします。最初に、副座長の田中様、よろしく願います。

(田中良幸 副座長)

大垣市21世紀ビジョン懇談会が東京で行われました。外から見た大垣を聞きました。芭蕉元禄、芭蕉豆腐、芭蕉いなり寿司などいろいろ出ましたが、豆腐やいなり寿司が芭蕉とどのような関係があるのかという感じでした。

若年層が大垣をどう考えているか。大垣という地名はいかにも知られていない。どうアピールするかが問題だと思います。前回のお話では、大垣が奥の細道むすび

の地ということ、大垣女子短期大学や岐阜経済大学の学生さんが全く知らなかったと言いました。これが本当の姿ではないかと思えます。大醒榭や小原鉄心といっても、歴史的にも文化的にもまだまだ知名度が非常に低い。そのことも含めて船町を大きくアピールするためには、まず大垣と芭蕉の関わりをアピールしないと、構想倒れになってしまうのではないかという危惧しています。

昔、大垣青年クラブが、深川から大垣まで自転車で回りました。そういうことも含めて、なぜ芭蕉が大垣をむすびの地にしたかも含めてアピールすることが大事だと思います。また、守屋さんの家の保存をどうするかも大事だと思います。

(金森 勤 委員)

今回の船町の構想は、物販ではなく、奥の細道に特化することが大事だと思います。物販はショッピングセンターもできていて、現状では難しいと思います。

どういふものを船町に作るかですが、市民、あるいは大垣を訪れる人が、2時間、3時間滞在して帰る。行ってきて良かったと思われないと、リピーターも増えないと思います。

奥の細道に関わることは、すべて船町に集めるのも一つの手だと思います。ただ、それだけでは市外から来た人には物足りない。奥の細道の芭蕉元禄時代から明治維新までの大垣の先賢を再現する。それによって滞在できる場ができると思います。

(北野茂樹 委員)

大垣らしさをもっと出さないとだめだと思います。記念館もあちこちにあるので、立派なものを作ってもなかなか入ってくれないと思います。

若い人は昔のものは興味があります。7月に大井川鉄道のSLにりましたが満員でした。それを考えると、昔、高橋から船に乗って、桑名へ行ったりしました。海水浴へ行った記憶もあります。これが一生忘れられないです。できることなら船着場などを再現してもらおう。レストランやお土産コーナーは回遊性を持たせて、まちの中を歩いてもらえばいいと思います。海運、水運を再現するといった思い切ったことをしないと、大垣に目を向けてもらえないと思います。

(大橋庄一郎 委員)

全国に、芭蕉の記念館は、深川、黒羽、須賀川、尾花沢などがあり、東北に多いです。行程で言うと三分の一に留まっています。奥羽の出羽三山から大垣までは句碑があっても、これという建物は少ないです。ですから、大垣で立派な建物を作ったら必ず人は集まると思えます。全国から集める核として十分なものになると思います。5か所の記念館を見て、良いところを引き抜き、それらにないところを古風な感じで作っていただくと良いと思います。小原鉄心とか先賢などいろいろやると訳が分からなくなるので、とりあえず芭蕉や奥の細道に絞って、立派に作ったら成功すると思います。

名称ですが、俳句では芭蕉蛤塚忌全国俳句大会ということで、誰が見てもややくいしい名前がついています。建物は奥の細道記念館など、分かりやすく親しみやすい名前にして欲しいと思います。

外から見える場所に自噴水を作っただいて、せせらぎを作ることも大事だと思います。あとは3部屋ぐらい俳句の考える部屋を作ってもらおう。句会ができるような部屋を作ってもらおうと良いと思います。

土産物屋や食堂は民間経営でないと失敗しますし、建物の前に自然に発生するのが理想ですが、最初のうちは考慮してもらわないといけないと思います。

(谷口いつゝ 委員)

日本一立派な俳句会館を作っただいす。付帯施設は後から徐々に作ればよいと思います。

生活の場でもあるので、幼児からシニアまで憩えるよう場所にして欲しい。水を見て、鯉に餌をやり、アヒルがいて、鳥が飛んでくるような雰囲気にしたら、俳句やむすびの地を自然に学ぶようになるのではないかと思います。

(矢橋和江 委員)

文化財保護協会として、大醒榭が関心だと言いましたが、きちんと移築できそうだという感じでほっとしています。

もう一つは外から来た人の目を大事にした計画にして欲しいということを行いました。その点についても、今回も若い大学生が参加しており、学生さんからも同様の意見をいただいて、意を強くしました。私自身も大垣に来たのが40年前です。その時に小原鉄心がどういふ人か知りませんでした。こちらに来て勉強して分かりました。その辺りを考慮して、よく分かるまちである説明をしていただきたいと思います。

駐車場について言うと、昨年、秋田の角館の武家屋敷を歩きました。武家屋敷の近くには駐車場がありません。車はかなり遠いところに駐車された気がします。ともかく歩かなければならない。歩いていくうちに、武家屋敷の通りを自然に歩いて全部見てしまうという形になっていました。駐車場を非常に近いところに作ると、車で降りてそこだけ見て大垣は分かったという感じで帰る人があると残念です。ですから、駅から歩くという意味は、大垣城、守屋多々志美術館、水門川沿いを歩いてもらって、大垣と水についても少し分かってもらおう。歩かざるを得ないことで、大垣を知ってもらおうということ、むすびの地という場所だけでなく、もう少し広い範囲で考えてもらおうと良いと思います。

(疋田 正 委員)

全国でここだけにしかないむすびの地ということで、特化した、有効に生かした施設を作っただいす。

できれば、それ以外のものを周辺にばらまいて、観光客に歩いてもらおう。そのことによって、もっと大垣のまちが分かってもらえるし、その途中で土産も買うということで、観光客にまちを歩いてもらうことが大事だと思います。周辺の活性化という意味からも、施設を外側に設けることをお願いしたいと思います。

(三輪高史 委員)

今回の土地についてどうするかということと、全体をどうするかを分けて話をしないと、なかなか見えてこないと思います。私はいろいろ関わっていますが、自分の中のやりたいことは自分でやります。それとは別に、この場所をどうするかについて皆さん言われているように、とりあえず何かやりましょうということについて、だいたいのことがまとまれば、すべてのことを具現化しなくてもいいわけです。

総合福祉会館をどうするかは大きな問題です。あれは芭蕉記念館でも良いのです。ということは福祉の拠点が移転する話となり、都市計画が大事だとずっと言っています。都市計画がないのに、ここだけどうするかと話をすると、最終的には中心市街地をどうするかという話になってしまいます。

先週、名古屋大学の田中先生が研究発表をしました。水の流れを使って水利と治水から研究されています。最後に船町に来ました。私の会社の酒蔵は3階建てです。日本全国を見ても3階建ての酒蔵はないです。なぜ3階建てになっているか聞いたら、2階に貯蔵したのです。1階が水に浸かってしまう。ものすごい梁の上に樽を載せて、2階に貯蔵した。これは大垣ならではの知恵です。そういうことがソフト的にあるのですが、もう少し水をありがたいと思って、どんどん出しましょうということです。施設を作るのも良いですが、井戸からがんがん水が出るようにすれば良いと思います。

先日も広島から蔵へ見学に来られました。どなたも自噴水を見てビックリするので、この場所でも具現化して欲しいと思います。

(小林 晃 委員)

先日、倉敷へ行きました。大垣の場合、桜だけで水門川は終わっています。倉敷はいろんな木が植えられていて、四季の花が楽しめます。柳も流暢でした。

今の福祉会館のところで止めてしまうのではなく、もう少し回遊できる道路を作ったほうが良いと思います。建物を見てもらうのも結構ですが、周囲の状況も見てもらいたいと思います。

(北村正章 委員)

私も倉敷へ行きました。狭い地域の中で、生活している人がどうなるのかも関心が高くなると思います。

見る、食べる、買う、泊まるという4つのポイントを倉敷は持っています。そうしたものも必要ではないかと思います。

倉敷の川筋は短い距離でしたが、車椅子もベビーカーも用意されていました。そこまで配慮されているのは珍しかったです。

大垣全体の構想というよりも、限られたこの地域の構想ということについて、話していかないと、藪に入る気がします。

前回、一番欲しいものは記念館と言いました。今回付け加えるなら、船町川の復元ができないかと思います。一つ目橋から五つ目橋まであった川筋の商家は復元できないと思います。仮に小さなスペースでも良いですから、敷地内に船町川を整備して、遊歩道なども作って、自噴水も備えて、市民が憩える場所があっても良いと

思います。

津山へも行きましたが、津山城址のすぐ近くに衆樂園という立派な庭園がありました。亀が泳いでいました。大垣の亀池もほとんど忘れられていましたが、そうしたものがあっても、来訪者を慰めてくれると思います。

(松岡昌男 委員)

芭蕉文化の継承ということから言うと、やはり、記念館は市民としてどうしてもお願いしたいです。しかし、仏作って魂入れずで、せっかく記念館を作っても、偽物ばかりではいけない。本物は木因との往復書簡だけです。たとえ一つでも本物が手に入らないか。天理教の美術館にあるらしいです。その中から一つでも譲ってもらえないか。

先賢館ですが、大垣市は箱物行政で懲りています。それだったら、他の市の建物で実施したら良いと思います。作るとなると、子孫を探して遺品を持ってこないという意味がないと思います。ただ写真を飾っているだけでは意味がないと思います。

小原鉄心の別荘は、それほど費用がかからないので、良いと思います。

この土地ですが、大きすぎると思います。9月に構想をまとめて、来年の予算にすると聞いていますが、もっと余裕をもって考えても良いのではないかと思います。少し性急すぎる気がします。

水門川の川底が年々上がってきています。藻をどれだけ掃除しても出てきます。何とかしないといけないと思います。

(菅沼 聖 委員)

大垣東高校に通っていました。通学で駅からの往復だけでなく、奥の細道が好きだったので、船町地区を通って大垣城で読書をして帰るという、観光客ともローカルともいえない立場でした。そこでよく見られた光景が、ローカルの人と観光客との共存というか、ごちゃまぜになっていました。利用者には観光客と生活している人の二つに大別できると思いますが、利用する用途や時間帯、こちらが提供するものもいろいろ違うと思うので、そういうことを考え計画を進めて欲しいと思います。

(津田志保 委員)

今年の4月に大垣へ引っ越してきました。大垣全体の観光についてということですが、大垣駅からむすびの地まで歩いて欲しいということは、観光を目指すまちとしてはありだと思いますが、駅から歩くと結構距離があります。丸一日時間があれば、地図を持って歩くことはあると思いますが、西美濃に観光に来る人は大垣だけでなく、他も見たい人がいると思います。そうした人にとって、駅にレンタサイクルがあると良いと思いました。歩いていくのも良いですが、駅からここまで歩くと言うのは、シャッター通りを見て歩くことになります。回遊できる景観がずっと続いていたら良いのですが、そうではない感じなので、自転車に乗って、パッパッと見られるような考えも必要だと思います。

船町周辺についてですが、お話を聞いていると、私も大垣に来てやっと芭蕉のまちなのねと知ったぐらいです。どれぐらい芭蕉ファンの方が大垣に来ているのか分

かりませんが、お話を聞いていると、大垣・芭蕉というつながりよりもむしろ、湊町、水の都市というつながりの方が強いのではないかという印象があります。

船町の湊の再現という話がありましたが、「陸の湊とは何？」という感じでしたが、今日初めて写真で見てそういう感じなのかと理解しました。もしかすると若い人たちは、あそこで船に乗って桑名まで下ろうということになるかもしれないと思いました。

(小西美那 委員)

前回、私は学習の施設になれば良いと言いました。小中学生は社会見学や総合学習などで来てくれると思いますが、高校生や大学生の出入りの向上が課題のようです。

一つ心配があります。若い人はマナーが悪いです。道にガムを捨てたり、ペットボトルを捨てたりします。公共の公園でも一人で占領したりする光景も目にします。そういうことが起きないか少し心配です。フリースペースがどういう場所になるかわからないですが、広場になるのであれば、暴走族などの溜まり場になるのではないかなども考えます。その辺りも考えて、計画して欲しいと思います。

(堀あゆ美 委員)

外から見た意見はとても大切ということでしたが、大垣は外から来にくい場所ではないと思います。名古屋から30分くらいです。アクセスが悪い場所ではないですが、逆に言えば大垣から別の地域に出やすいです。アクセスが悪いわけではないので、大垣に留まってもらう、泊まってもらうアクションが必要だと思います。

大垣が水の都だと言われているということですが、いつから言われているかわからないですが、ここ最近は随分浸透していると思います。外から来た人からも「水の都だと言われているですね。」と言われます。これはなぜかと考えると、観光パンフレットや広報やインターネットなどいろいろあると思いますが、一番効果があるのは口コミだと思います。水の都として定着し始めたのなら、次は芭蕉のまちとか、湊のまちという新しいキーワードを大垣と結びつけ、口コミを中心に広げていくことが大切だと思います。

地元に住んでいる人たちを、もっと大垣に注目させるために構想を練るのか、外から観光で大垣を訪れる人を増やすための一つの手段として構想を練るのかは、一緒になる部分もあるし、違う部分も出てくると思います。理想は、日頃から地元の人がある場所を活用して、年間を通じて観光客が訪れることだと思います。理想に近づけるために、地元の人に関心を向けることから始めるのか、観光客を増やすのかという目的の部分はずっと決めたほうが良いと思います。

(蟻塚正樹 委員)

全部を入れようとする、一つひとつのレベルが落ちると思います。食べて、見て、回遊してもらって、イベントもやると、言い出したらきりがありません。観光客にとって見れば、なんだと思われがちなものが出てしまうかもしれません。

ある程度限ったものをつくる必要があると思います。その中で、観光客に見ても

らいやすいものとしては、芭蕉、水門川の水。

体験する観光もプログラムとして必要だと思います。

俳句を読むためのスペースを作って、芭蕉つながりで来た人も体験して満足してもらおう。「水の都・大垣」を観光の目的としてきた人には、たらい船のような船に乗ってもらって水門川を体験するなど、常時体験してもらえるものを作ることも必要ではないかと思います。記念館にしても、何にしても見るだけでは不足ではないかと思います。

地域の人に知ってもらおう、どう活用してもらおうかも大切です。私は福井の出身です。以前、福井城があったところの周囲にお濠があり、その中に県庁が建っていますが、新しく福井城の門が整備されたことを帰省して知りました。しかし、市民は「そんなのができたの？」という感じでした。勝手に作って職員が良かったねと言っている感じです。そんなことになってしまうと、浮いたものになってしまう。市民がリピーターになる確率が高いと思うので、その辺りも考えて欲しいと思います。

(横山 正 座長)

ありがとうございました。最後に私からも発言させていただきます。

私は大垣に来て8年です。私は、住みやすくて良いまちで、大垣が大好きです。ただ景観を考えると、あそこの景色が良いなと思うポイントが少ないです。今度のこの場所が模範になって、それがまち全体に広がると良いと思います。

このプロジェクトは一角だけを考えるのではなく、市の方で都市計画をきちんと考えて欲しいと思います。この一体を整備した後に、どうしていくのかという方針を考えて欲しいと思います。

例えば、水門川の両側に細い緑地があります。少しゴチャゴチャしているので、もう少しキレイにならないかと思います。そうした部分も、これを機会に整備して欲しいと思います。

非常に難しいと思いますが、今回の土地は水門川に面していますが、水門川との間が道路で切れています。今度の敷地と水門川がつながって、水門川の片側だけを自動車道路にして、片側を遊歩道にするといったことも考えてもらうと良い。昔の船を復活するという事を考えると、川との直接のつながりができるスペースができるといいと思います。

それでは、お一人ずつ発言いただきましたので、これからは自由討議ということで、どなたか発言はありませんでしょうか。

(三輪高史 委員)

この会議に参加していない人がたくさんいます。観光協会もありますし、ボランティアガイド、NPO、10年前に比べると、すごいメンバーがまちづくりに関わっています。

人とのかわりかは、場所ができれば自然発生的に増殖すると思います。実は爆発しそうです。そのきっかけがなかったとずっと思っていました。このむすびの地周辺をきちんと整備してもらえれば、今関わっている人たちが必ず動き出します。商

売人は、儲かると思えば絶対出てきます。京都などはとんでもないところに車を止めさせられます。駐車場の話も、後から考えればいいと思います。

守屋さんの建物が朽ちていくのを毎日見えています。何とかしたいという思いは強いですが、守屋多々志美術館の話も含めて、最終的には解決されるものと思います。守屋さんの絵をいただいたときも、美術館を作るという話がありましたが、これも構想としては必要でしょうが、今回の話に入れ込む必要はないと思います。小原鉄心も別であると思います。とりあえずこの一角の構想をまとめていただいて、スタートして欲しいと思います。

(大橋庄一郎 委員)

総合福祉会館を芭蕉記念館にするのは全然ダメだと思います。あれでは誰も来ません。それらしい風格があるものにして欲しいと思います。

(金森 勤 委員)

見に来てもらうためには、差別化が一番だと思います。どうせ作るならハードもソフトも含めて日本唯一のものだと思います。大垣で全国的に有名なのは、水の都と奥の細道ですから、特化して、他にないものを作るべきだと思います。

(北村正章 委員)

東北へ行くと、奥の細道は「鼠が関」までで、従って大垣は奥の細道ではないと大きな声で言われます。芭蕉が結んだというのは、行く春から行く秋までの中で、芭蕉の繊細な考え方で作ったのでしょうが、東北の人に言わせると鼠が関まで、こちらは「越の細道」だと本に堂々と書くわけです。そうした中で、むすびの地をどうするかとなると、あまり大上段に構えずに、奥の細道をここで結んだというぐらいで良いのではないかと思います。

(横山 正 座長)

先ほど、図面の資料について説明がなかったのですが、ご説明いただけますか。

(三輪高史 委員)

昔の運河や町家の配置です。9代続いた谷家が、この構想予定地にあったということで、谷木因に関しても、何かこの場所でできたら良いと思います。

(矢橋和江 委員)

予定地東側、水門川西側の道路についてですが、一つの信号を外すために、抜け道として利用されているようです。この道路について、車の乗り入れを禁止し、水門川の近くまで広場として利用することはできないのでしょうか。

(北村正章 委員)

生活道路として利用されており、簡単には通行禁止できるものではないと思います。また、倉敷で感じたことで、道路と水面が非常に近いと思いました。大垣は、

5～6メートルも離れているので、違った考え方ができないのかなと思います。

(三輪高史 委員)

総合福祉会館の前のように、いつでも通れるのだけれども、自動車の通行に向けた道路でないという整備もあると思います。

(横山 正 座長)

ありがとうございました。予定の時間も参ったようでございます。それでは、その他として、何かご発言はございますでしょうか。

ないようです。それでは、進行を事務局へお返しします。

4. 閉会

(水井静雄 企画部長)

ありがとうございました。次回の懇談会でございますが、8月20日(水)午前10時から12時での開催を予定しております。ご多忙とは存じますが、ご出席くださいますようお願いいたします。

なお、次回の懇談会では、皆様から頂戴いたしましたご意見やご提言を踏まえ、事務局において「構想(素案)」をご提示申し上げます。

その「構想(素案)」をもとに、ご懇談いただければと存じますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、これをもちまして、第2回奥の細道むすびの地周辺整備構想懇談会を閉会させていただきます。本日は、誠にありがとうございました。